

「漢字のまち」喜多方

誘客へ新作戦

喜多方市で進められてきた「漢字のまちづくり」を生かし、一層の観光振興につなげる取り組みが動きだした。市民有志は今年春にも、漢字の古代文字看板が掲げられた名所を回る「ミステリーウォーク」に酒蔵中心のコースを加える。漢字ギャラリーの開設準備や古代文字カルタの制作も進んでおり、地域の魅力に磨きをかける。

ミステリーウォークは約リア別に三コース程度を設け、十〜二十カ所を訪ね、特製 定する計画だ。参加者には漢字看板の頭文字をつな 特製おちょこを配り、普段ぎ合わせて言葉を完成させ は公開していない蔵の見学するクイズゲーム。平成二十 五年から市内で実施してき うにする。今後、漢字看板した市民有志の「喜多方を漢 を掲げていない酒蔵に設置字のまちにする会」が、世界 を勧めていく。

的に注目を集めている地元 市内には漢字看板が約二の日本酒に着目し、地域を 百二十枚あり、いずれも盛り上げようと企画した。「茶」「時」など各店舗を「秘蔵コース」の名称で 象徴する一文字が記してあ各蔵元や醸造蔵などを巡 る。これまでは商店を中心る。駅周辺や蔵通りなど工 に巡る初級、中級、上級の

古代文字看板巡り 春から酒蔵コース



古代文字カルタを手に観光振興を誓う上野会長

カルタの商品化も



故高橋政巳 さん

高橋さんの仕事場だったが一丸となり漢字と観光を融合させた町おこしに取り組み」と意気込んでいる。

三コースのみだった。市によると、市内観光客の滞在時間は約四時間とさ、県内外の著名な観光地より一時間以上短い。一日中楽しめる観光地を目指している。上野昌宏会長は「各蔵元や醸造蔵に特化したコースに続き、ラーメン店なども含めたコースづくりも視野に入れる。漢字看板を制作し町おこしでギャラリーとして生まれ変わる。高橋さんが生前、何度も口にしてきた「漢字の面白さを知ることができるところをつくりたい」という願いを実現させる。はんこや看板などを展示し、一般開放する。上野会長は「遺志を継ぐことが一番の恩返し。会員